

3 地域別構想

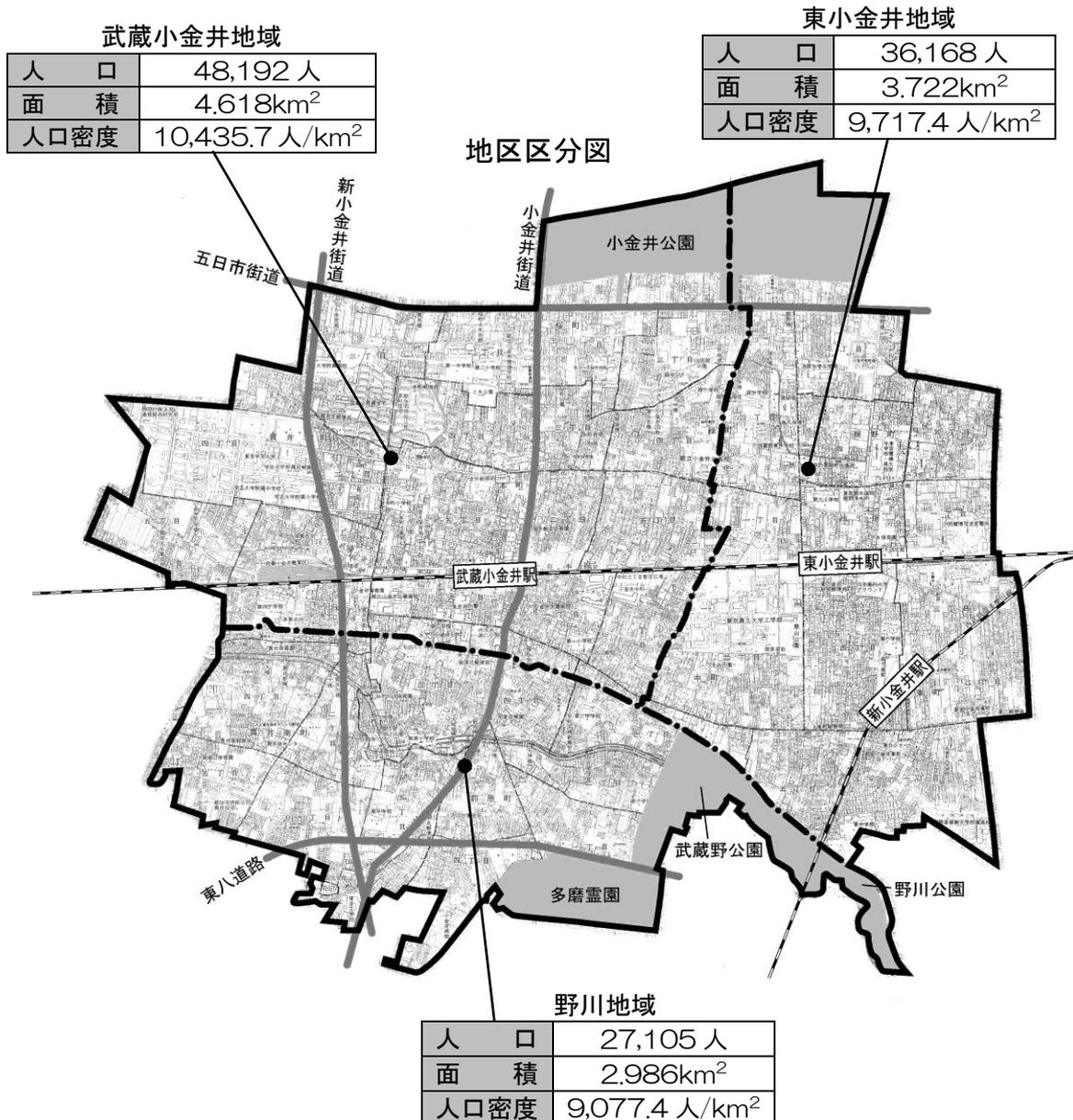
3

地域別構想

地域区分

平成13年度に策定された『小金井市都市計画マスタープラン』の策定過程において、地域別懇談会で検討された内容を踏まえ、JR中央本線武蔵小金井駅、東小金井駅の駅勢圏（東西の区分）と、国分寺崖線（はげ）により分けられる坂上・坂下の生活圏（南北の区分）により、小金井市を「武蔵小金井地域」、「東小金井地域」、「野川地域」の3地域に区分しています。

都市計画マスタープランを見直すに当たり、地域別構想は当初の地域の区分分けの考え方を継承して各地域別のまちづくりの推進を図ります。



武蔵小金井地域

まちづくりの基本目標

よみがえる街道文化のまち…人・楽・情報の交差点

地域の概要

武蔵小金井地域は、武蔵小金井駅を中心に、おおむね市の北西部に位置する地域です。

この地域は、大正15年の武蔵小金井駅の開設による交通利便性の向上や近代的な大量生産を目指した蛇の目ミシン工場の移転を契機に、駅付近を中心に住宅地が形成され、流入人口が増加し始めました。

その後、太平洋戦争を前に、貫井北町周辺に陸軍の技術研究所が建設されたことによる地場産業の発展や昭和30年代の公社住宅や国家公務員住宅などの大規模団地の建設、また、昭和34年に武蔵小金井駅北口広場が整備され、駅周辺に金融機関や大型店舗が開店し、近郊都市型の商業街として発展してきました。これに伴い、現在は駅周辺にマンションなどの都市型住宅が建設され、人口密度が高まっています。



▲武蔵小金井駅北口商店街
(昭和38年)

▼北口駅前 (昭和44年)



戦後の高度経済成長の一方で、急激な都市化により、基盤整備が追い付かず、南口駅前交通広場は整備不十分のままとなり、JR中央本線を横切る小金井街道の踏切は開かずの踏切として有名になりましたが、JR中央本線連続立体交差事業に伴い、南北の住民の往来が活発化するなど、住民の移動範囲（生活圏）が変化すると予測されます。

現在は、JR中央本線連続立体交差事業と併せた駅南口の市街地再開発事業により交通広場が整備され、バスなどの交通結節点となっています。

今後は新庁舎建設が予定されており、新庁舎建設予定地周辺のまちづくりや現本庁舎の跡地利用、JR中央本線高架下の有効活用などが求められています。

本地域の主要な施設の立地状況としては、武蔵小金井駅南口に市役所本庁舎や第二庁舎、中央図書館、公民館本館が位置しています。また、北西部に東京学芸大学、中央大学附属中学校・高校があり、駅周辺だけではなく新小金井街道にも飲食店が多く立地しています。

武蔵小金井地域の概況

人口及び世帯の動向（住民基本台帳）					
平成22年1月1日 （推計値）		48,192人		平成13年1月1日 （推計値）	
年少人口（0～14歳）		5,907人		年少人口（0～14歳）	
生産年齢人口（15～64歳）		33,104人		生産年齢人口（15～64歳）	
老年人口（65歳以上）		9,181人		老年人口（65歳以上）	
世帯数		23,178世帯		世帯数	
				46,318人	
				6,025人	
				33,291人	
				7,002人	
				21,154世帯	
土地利用現況（平成19年都市計画基礎調査）					
公共用地	77.2ha	商業用地	19.4ha	住宅用地	194.1ha
工業用地	6.9ha	農地・公園等	65.4ha	その他	98.9ha
				計	461.8ha
教育施設・生徒数（平成22年度）					
	保育園	小学校	中学校	高校	大学
施設数	5園	5校	1校	3校	1校
生徒数	522人	2,799人	441人	1,237人	5,688人

※教育施設は、保育園は認可保育所、小中学校は市立、高校は都立、大学は国立大学法人で計上しています。

まちづくりの基本方針

環境と共生するまちづくりをめざして

● 全体構想で位置づけられているみどりの拠点、環及び軸

みどりの拠点	小金井公園、東京学芸大学、法政大学グラウンド ※地区の核となる公園 浴恩館公園、小長久保公園、上水公園、桜町公園、本町第一公園、本町第二公園、上の原公園、三楽公園
みどりの大きな環	玉川上水と五日市街道、新小金井街道
みどりの小さな環	仙川、北大通り
みどりの軸	小金井街道（南北軸）、JR中央本線沿線（東西軸）

● みどりの資源の保全と活用

- ・小金井公園や三楽公園、浴恩館公園などは、みどり豊かな自然環境を保全し、市民が身近に自然と親しむ空間づくりを進めます。
- ・小金井の顔となる武蔵小金井駅前交通広場や駅周辺は、みどりを取り入れた市街地景観の創出を進めます。
- ・東京学芸大学や公社住宅などの住宅団地は、みどりを保全し、憩いの場として市民への開放を進めます。
- ・生産緑地などの農地は、これを保全し、体験型市民農園などの農地を活かしたまちづくりを推進します。
- ・小長久保公園の施設充実に伴う拡張整備に向けて、市民参加による計画検討や施設整備後の継続的な公園管理を行うための仕組みづくりを進めます。

● 水の資源の保全と活用

- ・仙川や砂川用水は、可能な区間について、河川環境の改善を東京都に要望するなど、親水空間の創出を図ります。
- ・玉川上水は、サクラ復活プロジェクトによるヤマザクラ並木の再生・復活を進めるとともに並木の眺望地点として人道橋を架設します。また、市民が安全で安心して憩えるような、サクラに親しめる緑道の整備を進め、歴史の薫る水辺環境としての維持、保全を進めます。

● 水とみどりのネットワーク

- ・みどりの大きな環、小さな環に位置づける国分寺崖線（はげ）、玉川上水などの地域固有の資源の活用や仙川などの整備により、歩行者や自転車のための水とみどりのネットワークの形成を進めます。
- ・みどりの環のほかにも、遊歩道や緑道等を活かして、身近な公園や社寺などを連絡する、地域の生活に密着した歩行者系道路の整備を進めます。

● みどり豊かな生活環境づくり

- ・定住人口の増加をめざし、武蔵小金井駅周辺など交通の利便性の高い地区では、周辺との環境調和に留意しながら、都市型住宅の計画的な誘導を推進します。
- ・みどり豊かで良好な住宅地は、環境の維持、保全を進めます。
- ・公園が不足している武蔵小金井駅東側では、地域住民の憩いやレクリエーションの場となり、災害時の避難場所となる公園の整備を進めます。
- ・関野町二丁目や貫井北町五丁目地内などにみられる屋敷林や雑木林は、保全の対象とし、まちづくりへの活用を進めます。

まちづくりの基本方針

安全で安心して暮らせるまちづくりをめざして

● 日常生活圏と地域中心拠点の整備

- ・五日市街道、東大通り、北大通り、連雀通り、新小金井街道など交通量の多い幹線道路を境にして、歩いて生活できる日常生活圏の確立を推進します。
- ・武蔵小金井駅周辺、北大通り、緑中央通りなどの商店街を核に、日常生活に必要な各種サービスが集積する地域中心拠点の整備を進めます。

● 日常生活圏内での主要生活道路の整備

- ・幹線道路とは別に、上の原通り、けやき通り、緑桜通りなどの地域内で比較的ゆったりとした幅員を持つ生活道路を中心に、歩行者や自転車が安心して移動でき、かつコミュニティ活動の軸となる主要生活道路の整備を進めます。

● 人にやさしい環境づくり

- ・平代坂、車屋の坂、白伝坊の坂、なそい坂などの国分寺崖線（はけ）の坂道において、人にやさしく個性ある坂道づくりを進めます。
- ・高齢者から子どもまで、世代を超えて交流できるふれあいの場づくりを進めます。
- ・駅周辺に、地域の公共交通を担う交通手段の一つとして、地域ニーズに合わせたレンタサイクルの導入を目指します。



▲武蔵小金井駅南口第2地区

まちづくりの基本方針

地域の魅力と活力にみちたまちづくりをめざして

● 武蔵小金井駅周辺のまちづくり

- ・ 武蔵小金井駅南口第2地区の再開発の着実な事業化と武蔵小金井駅北口のまちづくりについては、権利者や市民の意向を踏まえて検討します。
- ・ JR中央本線連続立体交差事業に併せて駅北口交通広場を再整備し、より安全・安心な歩行者動線への改善を進めます。
- ・ 駅北口の大規模生産緑地を、農業公園としての利用を検討します。
- ・ 駅周辺では、放置自転車や通過交通を排除し、来街者の安全で快適な回遊空間を確保するための駐車場や駐輪場の整備を進めます。
- ・ 行政サービスの中核となり、市民交流の場となる新庁舎の建設を、蛇の目ミシン工場跡地で進めます。

● JR中央本線沿線のまちづくり

- ・ JR中央本線連続立体交差事業を契機として、魅力的な沿線まちづくりを推進します。
- ・ JR中央本線連続立体交差事業により整備される側道は、6～8mの幅員が確保されることから、主要生活道路として位置づけ、歩行者や自転車も安全で安心して通行できる道路として整備を進めます。

● 地域の顔となる地区のまちづくり

- ・ 小金井街道は市を代表する道として、災害に強く、魅力的な道路環境を形成するため、整備がおおむね完了した駅北側に続き、駅南側のアーケード撤去と併せて電線類地中化（無電柱化）を進めます。また、鉄道により行き来の出来なかった道路の整備により、南北方向の交通の円滑化を進めます。
- ・ 市の顔にふさわしい駅周辺等で、電線類地中化（無電柱化）や建築物の規制誘導を進めます。
- ・ 国分寺崖線（はけ）の坂道は、地域固有の魅力的な景観要素になるように、歩行者系道路として演出した整備を進めます。

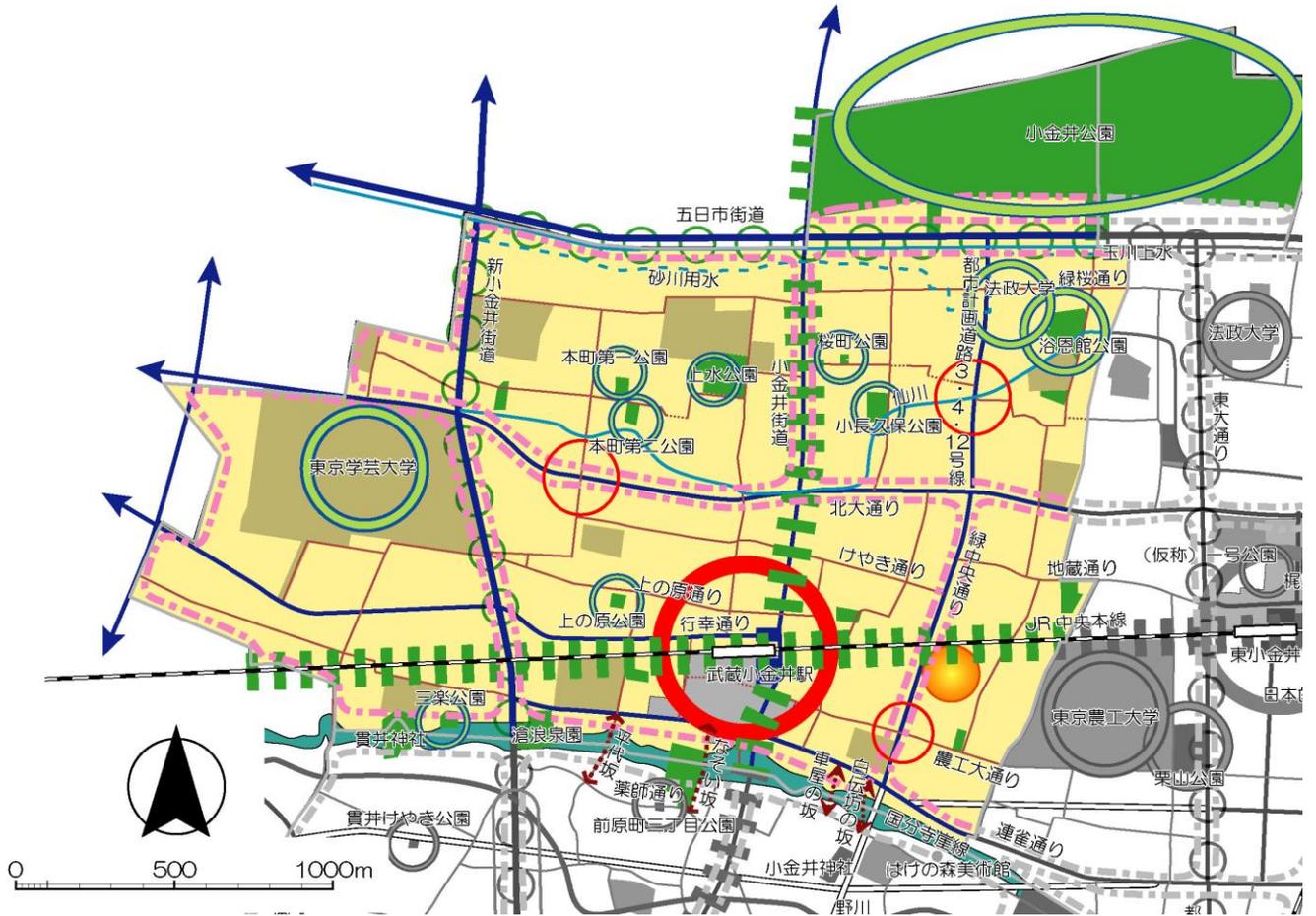
● 大学・研究所を活用したまちづくり

- ・ 東京学芸大学や情報通信研究機構と地域の事業所や市民との交流による生涯学習の推進など、大学・研究所を活用したまちづくりを進めます。

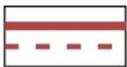
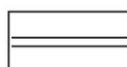
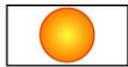
● 農地を活用したまちづくり

- ・ 貴重なみどりの資源となる農地の保全と援農を図るため、市民と農家が協力しあえるような仕組みづくりを推進します。

武蔵小金井地域 まちづくりの方針



凡 例

- | | | | | | |
|---|-------------|---|--------------------------------|---|---------------|
|  | 総合拠点 |  | 主要生活道路 (現道あり)
主要生活道路 (現道なし) |  | 幹線道路 |
|  | みどりの拠点 |  | 日常生活圏
(コミュニティゾーン) |  | 都市計画道路 |
|  | 地域中心拠点 |  | 国分寺崖線 (はげ) |  | 公共施設 (学校教育施設) |
|  | 新たなまちおこしの拠点 |  | 河 川 |  | 都市計画公園・緑地 |
|  | みどりの大きな環 |  | 坂 道 |  | 再開発を促進するゾーン |
|  | みどりの軸 | | | | |

東小金井地域

まちづくりの基本目標

みどりと花を育(はぐく)み学びあうまち

地域の概要

東小金井地域は、東小金井駅を中心としたおむね市の北東部に位置する地域です。

この地域には、大正6年に設置された多摩鉄道（現 西武多摩川線）新小金井駅があり、多摩川の砂利運送専用路線として運行され、昭和30年代ごろまでは、引き込み線から東町一丁目付近の砂利砕石工場へ運ばれていました。

その後、農地など武蔵野の面影を残していた地域に、昭和39年に地域住民の新駅設置請願運動により東小金井駅が開設されたことを契機として、急激に住宅地が形成され、駅周辺部は十分な都市基盤が整備されないまま、都市化が進みました。このため、現在は低層住居が多く、狭隘道路が多い状況となっており、特に地域南部の東二丁目付近は木造住宅密集地域となっています。



▲東小金井駅南口（昭和40年）

▼北大通り（昭和42年）



現在は、JR中央本線連続立体交差事業と併せた東小金井駅北口の土地区画整理事業により、駅前交通広場や道路、公園を確保して、基盤の整備を進めています。

今後はJR中央本線高架下や土地区画整理事業区域内のまちづくり事業用地の有効活用などが求められています。

本地域の主要な施設の立地状況としては、地域の北部に都立小金井公園、南部に都立武蔵野公園、都立野川公園が位置しており、東小金井駅付近には東京農工大学、法政大学などがあり、駅周辺ではにぎわいを見せています。

東小金井地域の概況

人口及び世帯の動向（住民基本台帳）													
平成22年1月1日 （推計値）		36,168人		平成13年1月1日 （推計値）		35,605人							
年少人口（0～14歳）		4,173人		年少人口（0～14歳）		4,371人							
生産年齢人口（15～64歳）		25,318人		生産年齢人口（15～64歳）		25,866人							
老年人口（65歳以上）		6,677人		老年人口（65歳以上）		5,368人							
世帯数		18,137世帯		世帯数		17,147世帯							
土地利用現況（平成19年都市計画基礎調査）													
公共用地		46.8ha		商業用地		15.6ha		住宅用地		165.9ha			
工業用地		3.4ha		農業・公園等		84.1ha		その他		56.3ha			
										計		372.2ha	
教育施設・生徒数（平成22年度）													
	保育園		小学校		中学校		高校		大学				
施設数		4園		2校		2校		－校		1校			
生徒数		394人		1,267人		923人		－人		3,483人			

※教育施設は、保育園は認可保育所、小中学校は市立、高校は都立、大学は国立大学法人で計上しています。

まちづくりの基本方針

環境と共生するまちづくりをめざして

● 全体構想で位置づけられているみどりの拠点、環及び軸

みどりの拠点	小金井公園、武蔵野公園、野川公園、東京農工大学、法政大学 ※地区の核となる公園 栗山公園、梶野公園、(仮称) 一号公園
みどりの 大きな環	玉川上水と五日市街道、東大通り
みどりの 小さな環	仙川、西武多摩川線沿線、北大通り、 都市計画道路3・4・8号線、都市計画道路3・4・9号線
みどりの軸	JR中央本線沿線(東西軸)

● みどりの資源の保全と活用

- ・ 小金井公園や野川公園及び武蔵野公園の大規模公園は、みどり豊かな自然環境を保全し、市民が身近に自然と親しむ空間づくりを進めます。
- ・ 東小金井駅や新小金井駅周辺は、みどりを取り入れた市街地景観の創出を推進します。
- ・ 東京農工大学や法政大学では、みどりを創出し、憩いの場として市民への開放を進めます。
- ・ 国分寺崖線(はけ)は、みどりを保全し、緑地軸の形成を推進します。
- ・ 生産緑地などの農地は、これを保全し、体験型市民農園などの農地を活かしたまちづくりを進めます。

● 水の資源の保全と活用

- ・ 仙川や砂川用水は、可能な区間について、河川環境の改善を東京都に要望するなど、親水空間の創出を進めます。
- ・ 玉川上水は、サクラ復活プロジェクトによるヤマザクラ並木の再生・復活を進めるとともに並木の眺望地点として人道橋を架設します。また、市民が安全で安心して憩えるような、サクラに親しめる緑道の整備を進め、歴史の薫る水辺環境としての維持、保全を図ります。

● 水とみどりのネットワーク

- ・ みどりの大きな環、小さな環に位置づける玉川上水などの地域固有の資源の活用や、仙川、東大通り、西武多摩川線の鉄道敷などの整備により、歩行者や自転車のための水とみどりのネットワークの形成を図ります。
- ・ みどりの環と併せて身近な公園や社寺などを連絡する、地域の生活に密着した歩行者系道路の整備を進めます。

● みどり豊かな生活環境づくり

- ・ 定住人口の増加をめざし、東小金井駅や新小金井駅周辺などの利便性の高い地区では、周辺との環境調和に留意しながら、都市型住宅の計画的な誘導を推進します。
- ・ 東町一丁目地内などにみられるみどり豊かで良好な住宅地は、環境の維持、保全を推進します。
- ・ (仮称) 一号公園は街区公園として、市民参加による計画検討に基づき、施設整備後の継続的な公園管理を行うための仕組みづくりを進めます。
- ・ 関野町一丁目や緑町一丁目地内などにみられる屋敷林や雑木林は保全の対象とし、まちづくりへの活用を進めます。

まちづくりの基本方針

安全で安心して暮らせるまちづくりをめざして

● 日常生活圏と地域中心拠点の整備

- ・五日市街道、東大通り、北大通り、連雀通りなどの交通量の多い幹線道路や、西武多摩川線を境にして、歩いて生活できる日常生活圏の確立を推進します。
- ・東小金井駅周辺、新小金井駅周辺、北大通りを核に、日常生活に必要な各種サービスが集積する地域中心拠点の整備を進めます。

● 日常生活圏内の主要生活道路の整備

- ・幹線道路とは別に、梶野通り、緑桜通り、地蔵通り、農工大通り、富士見通りなどの地域内で比較的ゆったりとした幅員を持つ生活道路を中心に、歩行者や自転車が安心して移動でき、かつコミュニティ活動の軸となる主要生活道路の整備を進めます。

● 人にやさしい環境づくり

- ・武蔵野公園内へつながる暗く狭い坂や階段は、災害時の避難路として利用できるように、国分寺崖線（はけ）と調和した環境整備を進めます。
- ・高齢者から子どもまで、世代を超えて交流できるふれあいの場づくりを進めます。
- ・駅周辺に、地域の公共交通を担う交通手段の一つとして、地域ニーズに合わせたレンタサイクルの導入を目指します。



▲東小金井駅北口土地区画整理事業（イメージ図）

まちづくりの基本方針

地域の魅力と活力にみちたまちづくりをめざして

● 東小金井駅、新小金井駅周辺のまちづくり

- ・地域の魅力や活力の発信源となる東小金井駅、新小金井駅周辺のまちづくりを進めます。
- ・東小金井駅北口は、土地区画整理事業による市街地の再編を進め、拠点性の向上を図ります。併せて、土地区画整理事業区域内で取得するまちづくり事業用地については、市民の意向を踏まえた最適な整備活用を進めます。
- ・東小金井駅周辺は、JR中央本線高架下の駐輪場整備、駅南口の暫定駅前交通広場整備を進め、安全で快適な回遊空間を確保します。
- ・東小金井駅と新小金井駅を結ぶ回遊性のある商店街づくりを推進します。
- ・東小金井駅南口の日本歯科大学グラウンドは、地域に開放し、盆踊りなど地域の活動や交流の場として活用できるように推進します。

● JR中央本線沿線のまちづくり

- ・JR中央本線連続立体交差事業を契機として、高架下にSOHO、駐輪場、（仮称）市政センターの整備を進め、併せて魅力的な沿線まちづくりを進めます。
- ・JR中央本線連続立体交差事業により整備される側道は、6～8mの幅員が確保されることから、主要生活道路として位置づけ、歩行者や自転車も安全で安心して通行できる道路として整備を進めます。
- ・地域活性化を図るための情報発信拠点として、東小金井駅南口の小金井市内産品のタウンショップ活用を進めます。

● 地域の顔となる地区のまちづくり

- ・小金井公園、武蔵野公園及び野川公園を連絡する東大通りは、広幅員を活かした道路づくりに向けて、周辺商店街との協働によるまちづくりの検討を進めます。

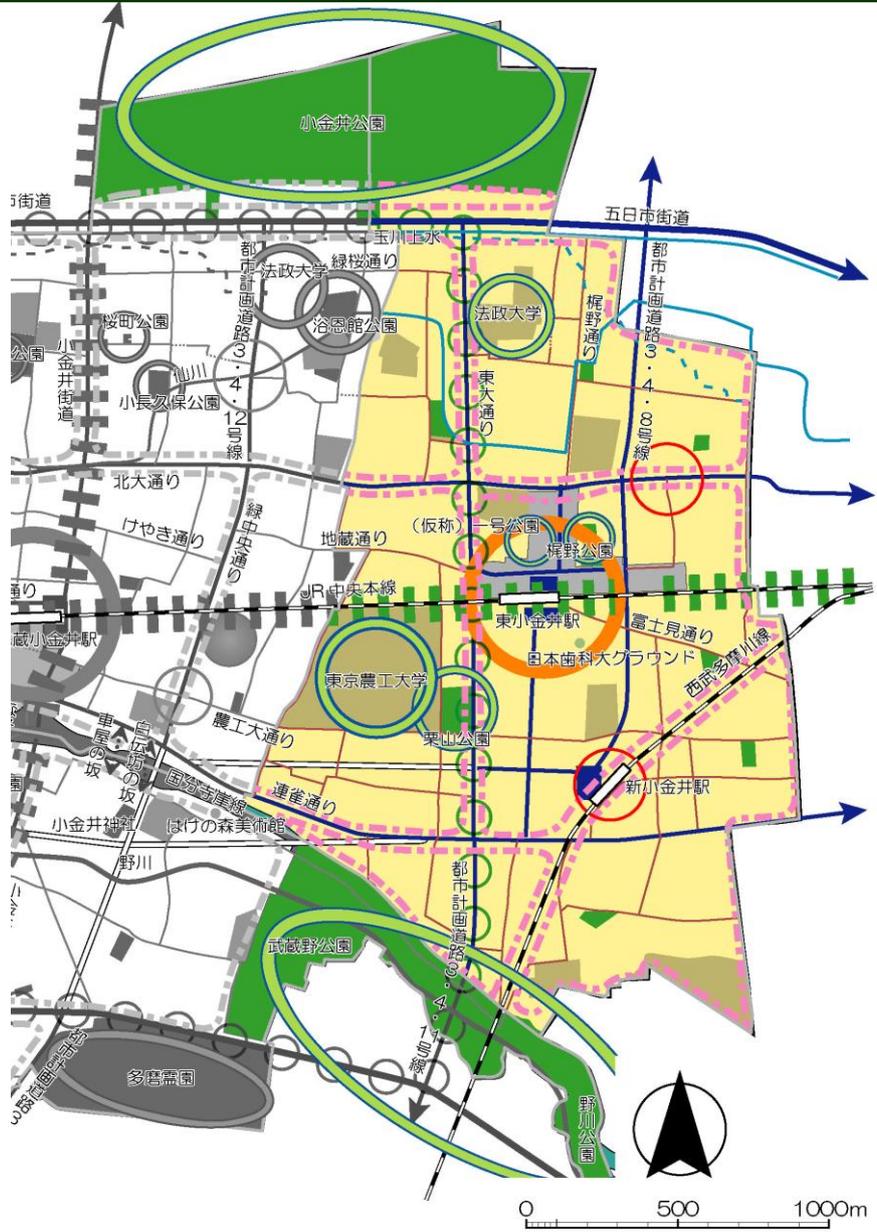
● 大学を活用したまちづくり

- ・東京農工大学と法政大学と地域の事業所や市民との交流による生涯学習の推進など、大学を活用したまちづくりを推進します。

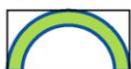
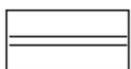
● 農地を活用したまちづくり

- ・貴重なみどりの資源となる農地の保全と援農を図るため、市民と農家が協力しあえるような仕組みづくりを推進します。

東小金井地域 まちづくりの方針



凡 例

- | | | | | | |
|---|----------|---|--------------------------------|---|---------------|
|  | 副次拠点 |  | 主要生活道路 (現道あり)
主要生活道路 (現道なし) |  | 幹線道路 |
|  | みどりの拠点 |  | 日常生活圏
(コミュニティゾーン) |  | 都市計画道路 |
|  | 地域中心拠点 |  | 国分寺崖線 (はけ) |  | 公共施設 (学校教育施設) |
|  | みどりの大きな環 |  | 河 川 |  | 都市計画公園・緑地 |
|  | みどりの軸 | | |  | 土地区画整理事業区域 |

野川地域

まちづくりの基本目標

野川を軸にみどりと水と人がふれあうまち

…便利さより心の豊かさを

地域の概要

野川地域は、市の南側に位置しおおむね国分寺崖線（はけ）の南側全域に位置する地域です。

国分寺崖線（はけ）は、国分寺市から世田谷区まで続く崖のことで、長い時間をかけて多摩川が武蔵野台地を削り取って作り上げたものです。崖上にはみどりが帯状に連なり、数ある坂や湧水がわき出ることで有名です。この地域には、今から3万年以上も前に、小金井で最初に人々が住み始めたといわれています。明治から昭和にかけては、政治家や実業家の別荘が広がっていましたが、現在では滄浪泉園などの緑地や公園などに受け継がれています。

野川公園は国際基督教大学のゴルフ場を東京都が昭和55年に整備した公園で、隣接する武蔵野公園と併せて、みどり豊かな小金井を代表する広大な自然資源となっています。これらの小金井を代表する多くの資源は、市民の憩いの場所となっています。



▲はけの道（昭和40年）

▼野川（昭和40年）



国分寺崖線（はげ）を境に坂下となっている地域は低層住居を中心とした住宅地が広がり、みどり豊かで良好な住環境が形成されています。

野川地域には鉄道駅がなく、コミュニティバス等の公共交通機関や自転車での通勤・通学となっており、地域の東部では商店等が不足しています。

今後は魅力ある地域資源を活かしながら、住環境の保全と併せて、駅周辺へのアクセス向上等が求められます。

野川地域の概況

人口及び世帯の動向（住民基本台帳）													
平成22年1月1日 （推計値）		27,105人		平成13年1月1日 （推計値）		25,895人							
年少人口（0～14歳）		3,386人		年少人口（0～14歳）		3,477人							
生産年齢人口（15～64歳）		18,424人		生産年齢人口（15～64歳）		18,199人							
老年人口（65歳以上）		5,295人		老年人口（65歳以上）		4,219人							
世帯数		12,305世帯		世帯数		11,153世帯							
土地利用現況（平成19年都市計画基礎調査）													
公共用地		18.9ha		商業用地		10.2ha		住宅用地		121.9ha			
工業用地		2.0ha		農地・公園等		66.5ha		その他		79.2ha			
										計		298.6ha	
教育施設・生徒数（平成22年度）													
	保育園		小学校		中学校		高校		大学				
施設数		4園		2校		2校		－校		－校			
生徒数		429人		1,089人		844人		－人		－人			

※教育施設は、保育園は認可保育所、小中学校は市立、高校は都立、大学は国立大学法人で計上しています。

まちづくりの基本方針

環境と共生するまちづくりをめざして

● 全体構想で位置づけられているみどりの拠点、環及び軸

みどりの拠点	武蔵野公園、野川公園、多磨霊園 ※地区の核となる公園 前原町三丁目公園、貫井けやき公園
みどりの大きな環	新小金井街道、東八道路
みどりの小さな環	西武多摩川線沿線、国分寺崖線（はけ）、野川、はけの道
みどりの軸	小金井街道（南北軸）

● みどりの資源の保全と活用

- ・ 国分寺崖線（はけ）は、みどり豊かな自然環境を保全し、生態系にも配慮した連続性のある緑地軸としての形成を推進します。
- ・ 武蔵野公園、野川公園の大規模公園や滄浪泉園、小金井神社などは、みどり豊かな自然環境を保全し、市民が身近に自然や歴史と親しむ空間づくりを進めます。
- ・ 地域内の農地は、周辺の緑地や雑木林と併せて保全し、地域住民の憩いの場として活用します。
- ・ 生産緑地などの農地は、これを保全し、体験型市民農園などの農地を活かしたまちづくりを推進します。

● 水の資源の保全と活用

- ・ 貫井神社、はけの森美術館などの湧水は、その維持に努めるとともに、身近に水にふれあうことのできる小径の整備を進めます。
- ・ 野川は、濁水状態の改善と併せて、生物の良好な生息・生育環境を有する河川環境を保全するため、自然再生事業を進めます。

● 水とみどりのネットワーク

- ・ みどりの大きな環、小さな環に位置づける国分寺崖線（はけ）や野川などの地域固有の資源を活用して、回遊性のある歩行者や自転車のための水とみどりのネットワークの形成を推進します。
- ・ 身近な公園や社寺などを連絡する、地域の生活に密着した歩行者系道路の整備を進めます。

● みどり豊かな生活環境づくり

- ・ 前原町二・三丁目地内などのみどり豊かで良好な住宅地は、住環境の維持、保全を推進します。
- ・ 地域内に点在する屋敷林や雑木林は、保全の対象とし、まちづくりへの活用を推進します。

まちづくりの基本方針

安全で安心して暮らせるまちづくりをめざして

● 日常生活圏と地域中心拠点の整備

- ・ 国分寺崖線（はけ）や小金井街道、新小金井街道、東八道路など、交通量の多い幹線道路を境にして、歩いて生活できる歩行者優先の日常生活圏の確立を推進します。
- ・ 小金井街道、新小金井街道の既存の商店を核に、日常生活に必要な各種サービスが集積する地域中心拠点の整備を進めます。

● 日常生活圏内での主要生活道路の整備

- ・ 幹線道路とは別に、薬師通り、池の上通り、西の久保通りなどの地域内で比較的ゆったりとした幅員を持つ生活道路を中心に、歩行者や自転車が安心して移動でき、かつコミュニティ活動の軸となる、主要生活道路の整備を進めます。

● 人にやさしい環境づくり

- ・ 平代坂、なそい坂などの国分寺崖線（はけ）の坂道において、人にやさしくふれあいの場となる、個性ある坂道づくりを進めます。
- ・ 高齢者から子どもまで、世代を超えて交流できるふれあいの場づくりを進めます。



▲国分寺崖線（はけ）

まちづくりの基本方針

地域の魅力と活力にみちたまちづくりをめざして

● 地域の顔となる地区のまちづくり

- ・ 国分寺崖線（はけ）沿いの「はけの道」は、貫井神社や滄浪泉園などの自然環境や歴史資源を連絡して、歩行者を中心としたふれあいの生まれる歴史と文化の薫る地域のシンボリックな散策路として整備を進めます。
- ・ 国分寺崖線（はけ）の坂道は、地域固有の魅力的な景観要素になるように、歩行者系道路として演出した整備を進めます。
- ・ 小金井街道は、魅力と活力の軸、みどりの軸、日常生活の軸、避難の軸などのたくさんの機能を持った道路として整備を進めます。
- ・ 市の顔にふさわしいゾーンや道路で、電線類地中化（無電柱化）や建築物の規制誘導を推進します。

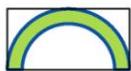
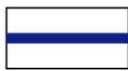
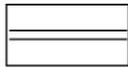
● 農地を活用したまちづくり

- ・ 貴重なみどりの資源となる農地の保全と援農を図るため、市民と農家が協力しあえるような仕組みづくりを推進します。

野川地域 まちづくりの方針



凡 例

- | | | | | | |
|---|----------|---|----------------------|---|---------------|
|  | みどりの拠点 |  | 主要生活道路 |  | 幹線道路 |
|  | 地域中心拠点 |  | 日常生活圏
(コミュニティゾーン) |  | 都市計画道路 |
|  | みどりの大きな環 |  | 国分寺崖線 (はけ) |  | 公共施設 (学校教育施設) |
|  | みどりの軸 |  | 河 川 |  | 都市計画公園・緑地 |
| | |  | 坂 道 | | |

